アクラ会合における
世界の中の日本

２００８年9月１９日

浅岡美恵

気候ネットワーク

日本の「中期目標設定のための効率積み上げ セクター別アプローチへの国際社会支持なし

2007年12月　**バリ会合**　日本はサイドイベントで提案

2008年1月　**ダボス会議**での福田首相発言

中期「総量目標」策定にあたり、削減負担の公平さを確保するために、エネルギー効率をセクター別に割り出し、今後活用される技術を基礎として削減可能量を積み上げること

3月　**バンコク会合**

4月　**G20**

5月　**G8環境大臣会合**

中期目標に代替するものではない。
セクター別ボトムアップ積み上げ削減量と科学の要請によるトップダウンの必要削減量との間にギャップがあり、そのギャップは政策措置で埋められるべき

6月　**福田ビジョン**

日本は、セクター別積み上げによって、2005年比14%削減が可能。
国別総量目標の設定に当たっては、セクター別積み上げ方式についての各国の理解を促進。

7月　**G8サミット**

セクター別アプローチは、各国の排出削減目標を達成する上で、とりわけ有益な手法

7月　**低炭素社会づくり行動計画（閣議決定）**

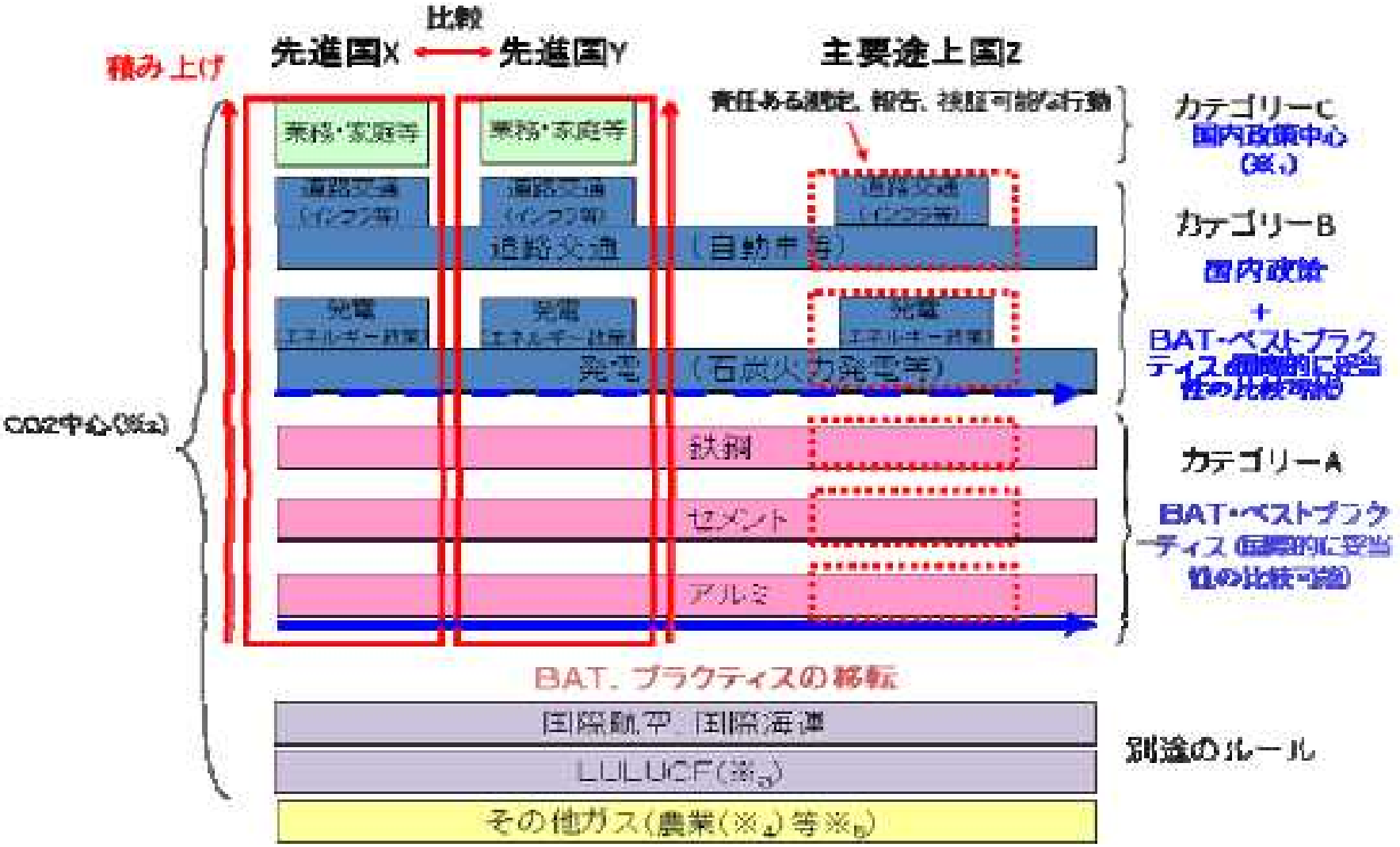
セクター別積み上げ方式について、公平な国別総量目標を設定するための共通の方法論として国際的に確立すべく各国の理解を得ることを目指す

8月　**アクラ会合**

日本：先進国の国別総量目標については、各国がセクター毎の削減ポテンシャルを検討し、今後の生産活動の見通しを反映した各国間での検証を経たセクター別削減量を積み上げることで、野心的かつ実現可能な目標を設定できる。
これにより、先進国間の比較可能性、公平性を確保

12月　**COP14**

アクラ会合での日本提案　セクター別積み上げ国別目標
エネルギー効率指標×活動見込量



セクター別アプローチの延長線にある政府の排出量取引の試行案

- 自主行動計画との整合性

  自主行動計画は国内版セクター別効率指標を含む積み上げ方式。どちらも内訳不透明。

- 自主参加、業界団体参加を容認

  個別事業者の目標割り振りがなされていない業界も。

- 原単位目標の場合

  原単位目標×活動見込み量（又は活動実績）から原単位改善に対応する量がクレジットに？

- 削減量の検証？

  透明性を欠いたままでなしえず。

途上国での削減行動と先進国の削減

- まず、２０２０年の先進国のパリ合意による削減目標
  先進国とは？
- 主要途上国での削減余地
  途上国への技術移転による可能性
- 途上国での削減対策、適応資金をどこに、どれだけ？
  さまざまなアイディア

⇩ ⇧

先進国の大幅削減目標

日本のセクター別提案支持と引き換えの「クールアース　パートナーシップ」ではない提案を

ＣＯＰ１５コペンハーゲン合意に向けての日本の国際貢献のために

日本に求められているのは国際感度
　Ｍａｋｅ　ｔｈｅ　Ｒｕｌｅ！
　第１約束期間を自主行動計画（無意味な取引試行）で無為に過ごしてはならない！